

2023年3月期 決算説明資料

2023年5月11日

1. サマリー情報

- (1) サマリー

2. 2023年3月期 決算

- (1) 業績
- (2) セグメント別 売上高・営業利益
- (3) セグメント別 売上高・営業利益 (対 前年度 増減・要因分析)
- (4) セグメント別 事業概況
- (5) 連結貸借対照表
- (6) 連結キャッシュ・フロー計算書

3. 2024年3月期 業績予想

- (1) 業績予想/EBITDA増減分析
- (2) 業績予想の補足
- (3) セグメント別 売上高・営業利益
- (4) セグメント別 事業計画

4. 株主還元

- (1) 株主還元

※ 2023年3月期より、全社共通費用を全て各事業に配賦する方法に変更しています。
2022年3月期のセグメント別営業利益・EBITDAについては、変更後の配賦方法に基づき組み替えた数値を記載しております。

2023年3月期業績

売上高 5,380億円、営業利益 475億円、EBITDA 791億円、ROE 14.3%、EPS 138.87円

- 自動車市場や電子デバイス市場の需要回復遅れの影響を受けたものの、マテリアル事業での拡販や販売価格の是正などにより、対前年度増収
- 需要回復の遅れや原燃料価格の上昇など厳しい事業環境であったものの、コストダウンや、将来を見据えた収益改善策を着実に実施することで、EBITDAは対前年度微増を確保

2024年3月期予想

売上高 5,720億円、営業利益 530億円、EBITDA 890億円、ROE 14.5%、EPS 154.04円

- 需要回復による販売機会を確実に捉え、全事業で拡販を計画
- マテリアル事業のアセテート・トウは、既存設備のフル活用による増産、販売価格改定により、大幅な増収
- 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの運転開始に伴い減価償却費は増加するものの、原料転換によるコストメリットや、各事業の収益改善により、営業利益の増益、EBITDAのさらなる増加

株主還元

- 2023年3月期配当予想は、前回予想通り対前年度**4円増配の 38円/株**（うち、期末配当予想は 20円/株）
- キャッシュ創出力向上により、2024年3月期配当予想は対前年度**6円増配の 44円/株**
- 1,600万株（消却前発行済株式総数に対する割合 5.28%）の**自己株式消却**を決定

2023年3月期 決算

2023年3月期 業績



単位：億円

	2022/3 実績	2023/3 予想(※)	2023/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
売上高	4,679	5,790	5,380	+701	+15.0%	△ 410	△7.1%
営業利益	507	540	475	△ 32	△6.3%	△ 65	△12.0%
経常利益	573	590	520	△ 53	△9.2%	△ 70	△11.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	313	410	407	+94	+30.2%	△ 3	△0.8%
為替レート USD/JPY	112	137	136				

	2022/3 実績	2023/3 予想(※)	2023/3 実績
EBITDA	789	860	791
ROE	12.3%	14.2%	14.3%
ROIC	6.2%	5.4%	5.3%
ROA	4.7%	5.6%	5.6%
EPS (円)	104.14	138.44	138.87

※ 2023年3月期業績予想：2022年11月2日発表の業績予想

<対前年度>

- 半導体不足などによる自動車生産回復の遅れや電子デバイス需要低下の影響を受けたものの、全社を挙げた販売価格の是正や、為替の影響などにより、売上高は増収
- 販売価格是正やコストダウンの積み増しに取り組んだものの、販売数量の減少や原燃料・物流コスト上昇の影響により、営業利益・経常利益は減益
- 前年度に減損損失（100億円）を計上していたこともあり、親会社株主に帰属する当期純利益は増益
- **EBITDAは微増となり、製品需要が弱い中でもキャッシュ創出力は維持**
- **自己株式取得の効果もありROEやEPSは上昇**

<対予想>

- 各事業における販路拡大や販売価格是正、コストダウンの積み増しなどに取り組んだものの、下期に見込んでいた需要回復の遅れや中国の感染拡大に伴う景気減速により、販売数量が未達
- **第4四半期以降の拡販やコストダウンの取り組みを新年度も継続、さらに強化**

セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円	売上高						
	2022/3 実績	2023/3 予想 (※)	2023/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	195	240	225	+30	+15.5%	△ 15	△6.2%
スマート	325	370	296	△ 29	△8.9%	△ 74	△20.0%
セイフティ	695	930	840	+145	+20.9%	△ 90	△9.7%
マテリアル	1,228	1,570	1,548	+320	+26.0%	△ 22	△1.4%
エンジニアリングプラスチック	2,123	2,590	2,381	+258	+12.2%	△ 209	△8.1%
その他事業	114	90	91	△ 24	△20.7%	+1	+0.6%
合 計	4,679	5,790	5,380	+701	+15.0%	△ 410	△7.1%

単位：億円	営業利益						
	2022/3 実績	2023/3 予想 (※)	2023/3 実績	対前年度		対予想	
				増減	増減率	増減	増減率
メディカル・ヘルスケア	24	23	7	△ 17	△71.3%	△ 16	△69.6%
スマート	40	15	△ 6	△ 47	-	△ 21	-
セイフティ	26	57	△ 1	△ 27	-	△ 58	-
マテリアル	183	160	219	+36	+19.6%	+59	+37.1%
エンジニアリングプラスチック	221	280	253	+32	+14.5%	△ 27	△9.6%
その他事業	12	5	3	△ 8	△70.9%	△ 2	△30.6%
合 計	507	540	475	△ 32	△6.3%	△ 65	△12.0%

EBITDA	
2022/3 実績	2023/3 実績
42	36
64	21
84	64
285	320
296	340
19	9
789	791

※ 2023年3月期業績予想は2022年11月2日に発表した業績予想です。

セグメント別 売上高・営業利益（対前年度 増減・要因分析）

単位：億円

	売上高						
	2022/3 実績	2023/3 実績	増減	増減率	分析		
					数量差	単価差	単価差の内 為替影響
メディカル・ヘルスケア	195	225	+30	+15.5%	+2	+28	+25
スマート	325	296	△ 29	△ 8.9%	△ 48	+19	+12
セイフティ	695	840	+145	+20.9%	+67	+79	+79
マテリアル	1,228	1,548	+320	+26.0%	△ 34	+354	+209
エンジニアリングプラスチック	2,123	2,381	+258	+12.2%	△ 113	+371	+234
その他事業	114	91	△ 24	△ 20.7%	△ 24	-	-
合計	4,679	5,380	+701	+15.0%	△ 150	+851	+558

単位：億円

	営業利益							
	2022/3 実績	2023/3 実績	増減	増減率	分析			
					数量影響	価格影響	その他	
メディカル・ヘルスケア	24	7	△ 17	△ 71.3%	△ 0	+11	△ 28	+11
スマート	40	△ 6	△ 47	-	△ 24	△ 21	△ 1	+2
セイフティ	26	△ 1	△ 27	-	+16	+11	△ 55	+21
マテリアル	183	219	+36	+19.6%	+17	+13	+6	+98
エンジニアリングプラスチック	221	253	+32	+14.5%	△ 33	+153	△ 88	+81
その他事業	12	3	△ 8	△ 70.9%	△ 8	-	-	-
合計	507	475	△ 32	△ 6.3%	△ 33	+167	△ 166	+212

セグメント別 営業利益（対前年度 増減・要因分析）

単位：億円		営業利益		
		分析	増減	増減要因
メディカル・ヘルスケア	数量影響	△ 0	△ 1,3-BGやキラルカラムなど主要製品の販売数量は増加するも構成差によりマイナス	
	価格影響	+ 11	+ 為替影響	
	その他	△ 28	△ 減価償却費など費用増加	
スマート	数量影響	△ 24	△ 光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）の販売数量減少	
	価格影響	△ 21	△ 原燃料価格上昇	
	その他	△ 1	△ 経費増加	
セイフティ	数量影響	+ 16	+ 販売数量増加、操業度上昇	
	価格影響	+ 11	+ 為替影響	
	その他	△ 55	△ 米国拠点の人的費や物流費、生産性改善に向けた支援強化などによる経費増加	
マテリアル	数量影響	+ 17	+ アセテート・トウやカプロラクトン誘導体などの販売数量増加、操業度上昇	
	価格影響	+ 13	+ アセテート・トウの販売価格是正、為替影響	
	その他	+ 6	+ 在庫影響	
エンジニアリングプラスチック	数量影響	△ 33	△ 販売数量減少	
	価格影響	+ 153	+ コスト上昇に伴う価格是正、為替影響	
	その他	△ 88	△ 直接販売費などの費用増加、在庫影響	

セグメント別 事業概況（2023年3月期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の状況（対前年度）・取り組み
メディカル・ヘルスケア	コスメヘルスケア	<p>コスメの国内市場は回復基調が継続。中国市場はロックダウンの影響により低調に推移</p> <p>健康食品の国内市場は堅調に推移</p>	<p>1,3-BGは中国ロックダウンの影響を受けたものの、新プラントの稼働に伴う拡販により販売数量は増加</p> <p>健康食品は主要製品の成長により販売数量が増加</p> <p>原燃料価格・物流コスト上昇に伴う販売価格是正を実施</p>
	ライフサイエンス	<p>キラルカラム・充填剤は、中国市場でコロナ感染拡大の影響により一時的に需要が低下したものの、総じて海外需要は堅調に推移</p>	<p>キラルカラム・充填剤は海外市場向けに拡販し販売数量が増加</p> <p>インドのサービス事業も成長</p>
スマート	電子デバイス半導体	<p>液晶パネルは、前年度のコロナ禍からの需要回復に伴う増産が一巡し、需要低下による生産調整が継続</p> <p>半導体市場は2Qまで堅調に推移していたが、3Qより需要の緩やかな低下傾向がみられた</p>	<p>光学フィルム用酢酸セルロース（TAC※）は、市場全体の需要低下による販売数量の減少に対し、製法改善・品質向上による新規顧客開拓など、TACフィルム市場でのシェアアップを推進</p> <p>機能フィルムは車載ディスプレイ用途で販売数量が増加</p> <p>電子材料溶剤・フォトレジスト材料の販売数量はディスプレイ用途は減少したものの、半導体用途は増加</p> <p>原燃料価格・物流コスト上昇に伴う販売価格是正を実施</p>
セイフティ	自動車	<p>自動車生産台数は1Qの中国ロックダウンや半導体不足、中国におけるコロナ感染拡大などの影響があったものの、前年を上回った</p>	<p>ペースは遅いもののコロナ禍からの回復需要や、新規獲得プログラムの販売開始もあり、インフレータの販売数量は増加</p> <p>韓国拠点閉鎖など生産地統廃合や各拠点でコストダウンに取り組むも、北米の人出不足に伴う人件費や物流費、日本からの支援などの経費増加が大きく影響</p>

※TAC（Tri-acetyl cellulose）： 液晶表示フィルム向け三酢酸セルロース

セグメント別 事業概況（2023年3月期）

セグメント	主要市場	市場環境	当社の状況（対前年度）・取り組み
マテリアル	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	酢酸の主用途であるVAM・PTAの需要は3Qより低下傾向がみられた。酢酸市況は供給面の回復により軟調に推移 酢酸エチルは、液晶ディスプレイ用途の需要が低下	酢酸は市況低下の影響を受けて販売単価が低下 酢酸・酢酸エチルの販売数量は減少 工場稼働状況に応じた生産計画や修繕計画の見直しによる経費の圧縮
	繊維 フィルター	世界のたばこ生産本数は対前年度で横這い。加熱式たばこ用の需要増の影響もあり、アセテート・トウ需要は堅調に推移	アセテート・トウは、既存設備の生産性向上により供給能力を拡大し販売数量は増加 原燃料価格・物流コスト上昇に伴う販売価格是正に加え、4Qから適用となる2023年価格も改善
	電材・ コーティング 用原料	カプロラクトン誘導体はウレタンの特殊用途需要が堅調に推移。エポキシ化合物は液晶ディスプレイや電子基板用途の需要が低下	カプロラクトン誘導体の自動車向け塗料保護フィルム（PPF※）用途の拡販により販売数量は増加 エポキシ化合物の販売数量は減少 原燃料価格・物流コスト上昇に伴う販売価格是正を実施
エンジニアリング プラスチック	自動車部品	HEV・EV向け部品などは堅調であるものの、自動車減産に加え、部品メーカーによる在庫圧縮の影響により需要は低調に推移	主要市場であるスペックイン市場の需要減に対応して汎用グレードの拡販に取り組むも、需要の低下により販売数量は減少
	電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電の生産は中国ロックダウンおよび不安定な社会情勢による買い控えを背景とする需要の低下を受けて低調に推移	物流コストが高騰する中で、PSI（生産・販売・在庫）管理強化により空輸コストの抑制など物流コスト削減を推進 原燃料価格・物流コスト上昇に伴う販売価格是正を実施

※PPF（Paint Protection Film）： 塗料保護フィルム

連結貸借対照表

単位：億円		2022年 3月末	2023年 3月末	増減
流動資産		3,602	4,066	+464
	現預金及び有価証券	905	938	+33
	受取手形及び売掛金	1,026	1,015	△ 10
	棚卸資産	1,420	1,772	+352
	その他	252	341	+89
固定資産		3,386	3,590	+204
	有形固定資産	2,298	2,561	+263
	無形固定資産	101	112	+11
	投資その他資産	987	917	△ 70
資産合計		6,988	7,656	+668
負債		4,193	4,552	+359
	有利子負債	2,836	3,220	+384
	その他	1,357	1,332	△ 25
純資産		2,795	3,104	+309
負債純資産 合計		6,988	7,656	+668

- 総資産増加額668億円のうち、176億円が為替影響
- 棚卸資産増加の主な要因は為替、原燃料価格上昇などの価格影響
- その他の要因として、ポリプラスチックス中国コンパウンド拠点移転計画に伴う在庫積み増しの実施や、需要回復遅れによる一時的な製品在庫の積み上がりなどによる数量影響
- 有形固定資産増加の主な要因は、ポリプラスチックスグループのPOM・LCP・COC製造能力増強投資
- 運転資金増加に伴い、短期資金調達を実施

単位：億円

		2022/3	2023/3	増減
	営業キャッシュ・フロー	430	268	△161
	投資キャッシュ・フロー	△465	△441	+24
フリーキャッシュフロー		△35	△172	△137
財務キャッシュ・フロー		△55	200	+254
その他		61	28	△33
現金及び現金同等物の増減額		△29	55	+84
現金及び現金同等物の当期末残高		880	935	+55

- 2023年3月期は、積極的な設備投資や、原燃料価格上昇・為替の影響を主な要因とする棚卸資産の増加により、フリーキャッシュフローは△172億円となり、対前年度で137億円減少
- 一方で、EBITDAは対前年度微増（789億円→791億円）でキャッシュ創出力は維持しており、中長期的に成長が期待される事業に積極的に投資を行うことで、将来のキャッシュ創出力を拡大

2024年3月期 業績予想

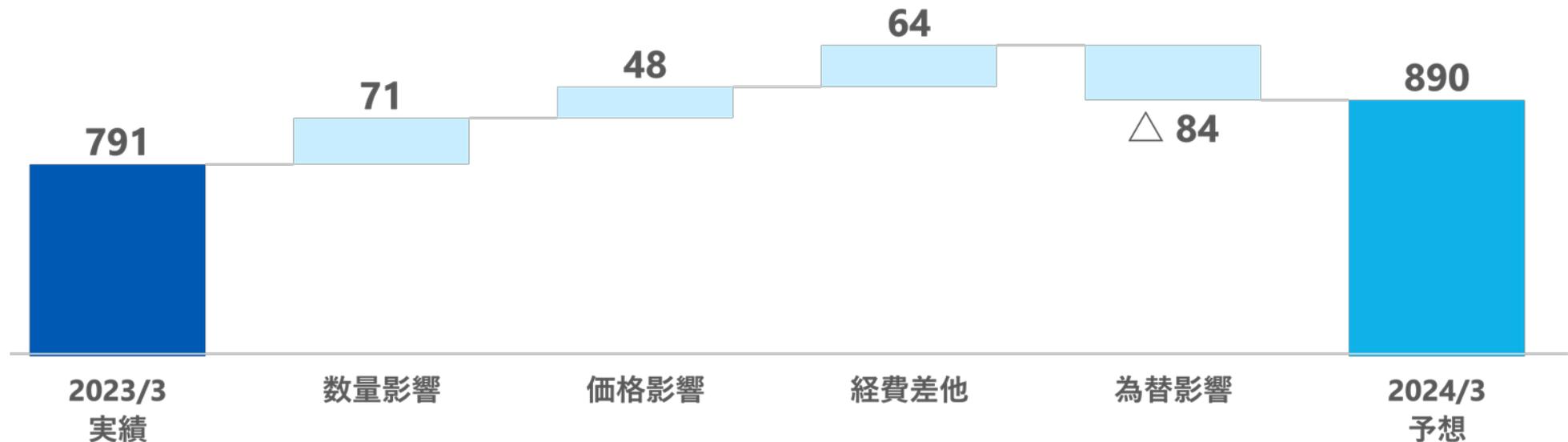
2024年3月期 業績予想/EBITDA増減分析

単位：億円

	2023/3 実績	2024/3 予想	増減	増減率
売上高	5,380	5,720	+340	+6.3%
営業利益	475	530	+55	+11.6%
経常利益	520	550	+30	+5.7%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	407	440	+33	+8.2%
為替レート USD/JPY	136	125		

	2023/3 実績	2024/3 予想
EBITDA	791	890
ROE	14.3%	14.5%
ROIC	5.3%	5.6%
ROA	5.6%	5.7%
EPS (円)	138.87	154.04

EBITDA増減分析



<業績予想>

- 主要市場である自動車市場、電子デバイス市場の年度後半にかけての需要回復を見込み、需要回復を確実に捉えた拡販、販売価格是正などにより増収
- マテリアル事業のアセテート・トウは、既存設備のフル活用による増産と価格改定による増収
- スマート事業のTACと合わせ、酢酸セルロースの製法改善による品質向上とコスト削減により、販売シェアと利益率を向上（後述）
- 酢酸原料（一酸化炭素）プラントの商業運転開始などにより、減価償却費合計は対前年度42億円の増加を見込むも、各事業における販売数量増加および販売価格是正、コストダウンの徹底により、増益
- エンジニアリングプラスチック事業など成長事業への投資が先行している中でも、事業環境に応じた投下資本効率の最大化を図り、中期的にROIC、ROAを改善

<EBITDA増減分析>

- 主要市場での需要回復や、アセテート・トウの増産などにより、数量影響はプラス
- エンジニアリングプラスチック事業は製品市況低下の影響を受けるも、マテリアル事業（アセテート・トウ）の販売価格是正などにより価格影響はプラス
- エンジニアリングプラスチック事業の定期修繕費が増加（前年度大型定期修繕スキップ）するものの、セイフティ事業の北米収益改善など、生産地集約や徹底したコストダウンの取り組みにより経費差他はプラス
- 為替レート（USD/JPY）前提 2023/3実績：136円 ⇒ 2024/3予想：125円

酢酸原料（一酸化炭素）プラント運転計画見直し

- 当初計画していたロシア炭に代わる炭種変更対応に加え、代替炭を限定することなく、使用可能な炭種を増やすことで今後の原料炭調達や生産の安定性を高めることを目的に、試運転期間を延長し商業運転開始を12月に変更（前回計画は、2023年6月運転開始）

一部事業・機能の取扱部門変更

- 1,3-BGは、増産設備の稼働により販売を拡大していくことから、取扱部門をヘルスケアSBUからマテリアルSBUに変更
（メディカル・ヘルスケアセグメント → マテリアルセグメント）
- ライフサイエンスSBU設置に伴い、グループ内医療関連事業の一体運営をさらに強化するため、新規投与デバイスの研究開発機能をセイフティSBUからライフサイエンスSBUに移管
（セイフティセグメント → メディカル・ヘルスケアセグメント）

2024年3月期 通期業績予想 セグメント別 売上高・営業利益

単位：億円

	売上高				営業利益				EBITDA	
	2023/3 実績	2024/3 予想	増減	増減率	2023/3 実績	2024/3 予想	増減	増減率	2023/3 実績	2024/3 予想
メディカル・ヘルスケア	166	135	△ 31	△18.6%	13	7	△ 6	△44.4%	29	18
スマート	296	400	+104	+35.1%	△ 6	5	+11	-	21	41
セイフティ	840	900	+60	+7.2%	5	80	+75	+1,447.4%	71	151
マテリアル	1,608	1,780	+173	+10.7%	207	250	+43	+20.7%	320	405
エンジニアリング プラスチック	2,381	2,450	+69	+2.9%	253	185	△ 68	△26.9%	340	267
その他事業	91	55	△ 36	△39.2%	3	3	△ 0	△13.6%	9	8
合 計	5,380	5,720	+340	+6.3%	475	530	+55	+11.6%	791	890

※ 比較のため、2023年3月期実績は、化粧品原料1,3BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映

セグメント別 事業計画（2024年3月期）

セグメント	主要市場	市場環境の見通し	当社の取り組み
メディカル・ヘルスケア	コスメ ヘルスケア	<p>コスメの国内市場はインバウンドの影響もあり、回復傾向が継続する見通し</p> <p>健康食品の国内市場は堅調に推移する見通し</p>	<p>BELLOCEA（真球状酢酸セルロース）の新規グレードなど新製品投入を加速</p> <p>こんにゃくセラミドなど既存製品の訴求機能拡大による拡販を推進</p>
	ライフサイエンス	<p>キラルカラム・充填剤の需要は23年3月期に引き続き海外市場を中心に堅調に推移する見通し</p>	<p>ライフサイエンスSBUを新設し、医療関連事業の一体運営による相乗効果で成長を加速</p> <p>キラル事業による市場チャンネルを活用し、DDS分野の事業化の加速、医療関連材料事業の拡大・強化を促進</p> <p>既存のキラル関連事業は、成長市場のインド・中国での事業拡大、欧米の遺伝子解析関連事業のマーケティング・新商品開発を強化</p>
スマート	電子デバイス 半導体	<p>液晶パネル在庫は下期からの適正化を見込む</p> <p>半導体市場は下期からの需要回復を想定</p>	<p>光学フィルム用酢酸セルロース（TAC）は、製法改善による低LCAパルプの使用範囲を拡大し、脱コットンリントナー、品質改善、在庫削減、コストダウンを進め、TACフィルム市場でのシェアと収益力を向上</p> <p>ダイセルビヨンドのドライコート技術やクリーンルームを活用した無機有機複合材料の開発・事業化を加速</p> <p>電子材料向け溶剤は増産プラント商業運転開始に伴い拡販</p> <p>フォトレジスト材料は主力のArFに加え、EUVレジスト用ポリマーの販売を拡大</p> <p>レジストポリマーの増産に向けたマイクロ流体デバイスプラントの開発加速</p>

セグメント別 事業計画（2024年3月期）

セグメント	主要市場	市場環境の見通し	当社の取り組み
セイフティ	自動車	半導体不足の影響など先行きは不透明ながら、自動車生産台数は前年度から増加する見通し	北米など人件費上昇の著しい拠点を中心に、労働装備率を向上 製造ラインの自動化を進め、自動化率73%を実現（23年3月期実績 65%）し、人件費の抑制と良品率の向上による収益改善 インドの新拠点稼働に伴い、ASEAN市場とも連携したリスクヘッジと積極的な新規プログラム獲得によるシェアアップを両立 中国系企業との関係強化 電流遮断器は、電気自動車（EV）向け量産ラインの建設を加速
マテリアル	樹脂・インク 用原料 塗料用溶剤	PTA・VAMや液晶ディスプレイ用途の需要は、下期からの本格的な回復を見込む	酢酸原料（一酸化炭素）プラントは、使用できる原料炭の種類を増やし、原料転換による比例費メリットと共に、原料炭の安定調達とプラントの安定運転を実現
	繊維 フィルター	世界のたばこ生産本数は対前年度に引き続き横這いを見込むも、加熱式たばこ用の需要増からアセテート・トウ需要は堅調に推移する見通し	アセテート・トウは、既存設備のフル活用により供給能力を拡大、加熱式タバコの需要増加に伴う客先増産要請の全量供給によるシェアアップ 使用できるパルプの種類拡大により、原材料の安定調達・コストダウン・在庫削減を実現し、サプライチェーンを強化
	電材・ コーティング 用原料	カプロラクトン誘導体は、ウレタンの特殊用途需要が堅調に推移する見通し。エポキシ化合物は、電子基板用途は上期中、液晶ディスプレイ用途は下期からの需要回復を見込む	カプロラクトン誘導体の、自動車向け塗料保護フィルム（PPF）など注力する高価格・高機能用途へのさらなる拡販 エポキシ化合物はEVモーターの絶縁体素材用の採用拡大に向けて、自動車メーカーへのマーケティングを加速

セグメント別 事業計画（2024年3月期）

セグメント	主要市場	市場環境の見通し	当社の取り組み
マテリアル	コスメ	コスメの国内市場はインバウンドの影響もあり、回復傾向が継続する見通し。中国市場もコロナ禍からの回復基調を見込む	化粧品市場の回復への確実な対応と、中国を中心としたアジア市場への拡販
エンジニアリング プラスチック	自動車部品	自動車生産台数は前年度を上回り、自動車部品需要も回復する見通し	EV車の軽量化を目的とした駆動部品の樹脂化ニーズに対応するPOMの摺動性向上グレードの開発、投入 ダイセル式生産革新展開によるポリプラスチックのコストダウン加速と、生産効率化による供給量拡大
	電機・電子 ・精密機器	スマートフォンやパソコンなどの電子デバイス、家電の生産は、下期からの回復を見込む	スペックイン市場の需要動向に合わせた汎用グレードの柔軟な販売による数量確保 スペックイン市場の需要反転時に迅速に対応できる生産体制と適切な在庫レベルの見極めにより、販売数量確保と収益の両立 2025年3月期に予定するPOM、LCP、COC増産を確実に遂行する建設体制の強化と、成長が期待されるCASE市場、中国自動車市場へのマーケティングの加速

酢酸セルロースの諸課題

- セルロースの難溶解性から、化学反応させ難く、未反応物の除去などの精製工程も含め、工程全体でエネルギー多消費型の製品
- 天然物由来原料の品質のばらつきから、バッチごとの運転条件の微調整による製品品質の作り込みが必要
- 原料は、コットンリンターや針葉樹系パルプ（アセテート用スペシャリティパルプ）が使用され、原料によって物性やコストに違いがある
- 異なる原料を使い分け、製品の品種も多くなることで、原料在庫、製品在庫が増加する
- 近年ではコットンリンターが世界的に不足傾向にある
- また、パルプの中にも、化学処理が少ないパルプ（低LCA）や、相対的に成長が早くコストも低い広葉樹系パルプもあるが、反応性が低い、不純物が多いなどの課題がある

- **製法改善によって、低LCAパルプや汎用グレードパルプなどを使いこなし、既存製品の品質を向上**
 - 原料の安定調達（脱リンター）、供給安定性の向上、コスト競争力の強化などによるシェアアップ
 - 原料品種削減による原料・製品在庫など棚卸資産の圧縮、キャッシュフローの改善
- **製法改善を通じた未溶解物の解析など、新たなファインセルロース生産につながる抜本的な新技術の開発**

自律型生産システムによる品質と生産性の向上（横展開中）

バッチごとに微調整している運転条件を、AIの支援による連続的な運転管理を行い、品質とコストを最適化する運転条件を導出、品質の向上と安定運転・コストダウンを両立させる

製法改善の変遷と今後の展開

セルロースの難溶解性から、反応や精製でエネルギー多消費となる酢酸セルロースの製造工程は、これまでも様々な改善を積み重ねてきた

①酢化技術の革新的反応法への挑戦（実施済み）

普通酢化 → 高温酢化（反応サイクルアップによる生産性向上） → 減圧酢化（省エネによるコストダウン）

②解砕法（原料パルプの反応前処理工程）の革新（実施済み）

臼型解砕 → 臼型＋スリット複合解砕 → 二段解砕

（原料をより細かくほぐすことによる反応性向上、不純物（未反応物）低減による品質向上、コストダウン）

③ドープロ過（TACで実証済み、DACへの横展開中）

（精製前工程のろ過処理による不純物除去 = 品質向上）

②③の組み合わせにより、低LCAパルプの使用可能範囲を拡大し、原料に左右されない品質向上、原料調達・製品供給の安定性向上、原料単価ダウン、原料・製品の品種統合による在庫削減、CF改善など包括的な効果を狙う

株主還元

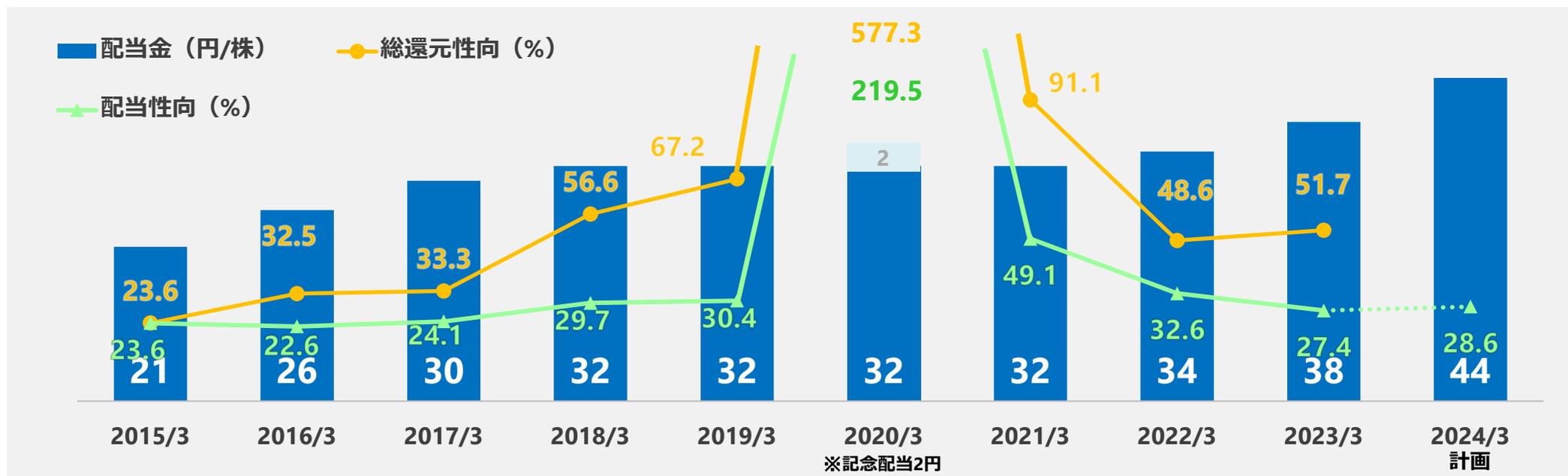
EBITDAを源泉に総還元性向40%以上の還元を実施

2023年3月期

- ・ 期末配当予想 20円/株
(年間配当38円/株 前回予想通り前期から**4円増配**)
- ・ 100億円、1,051万株の自己株式取得を実施
(取得期間：2022年11月～2023年2月)

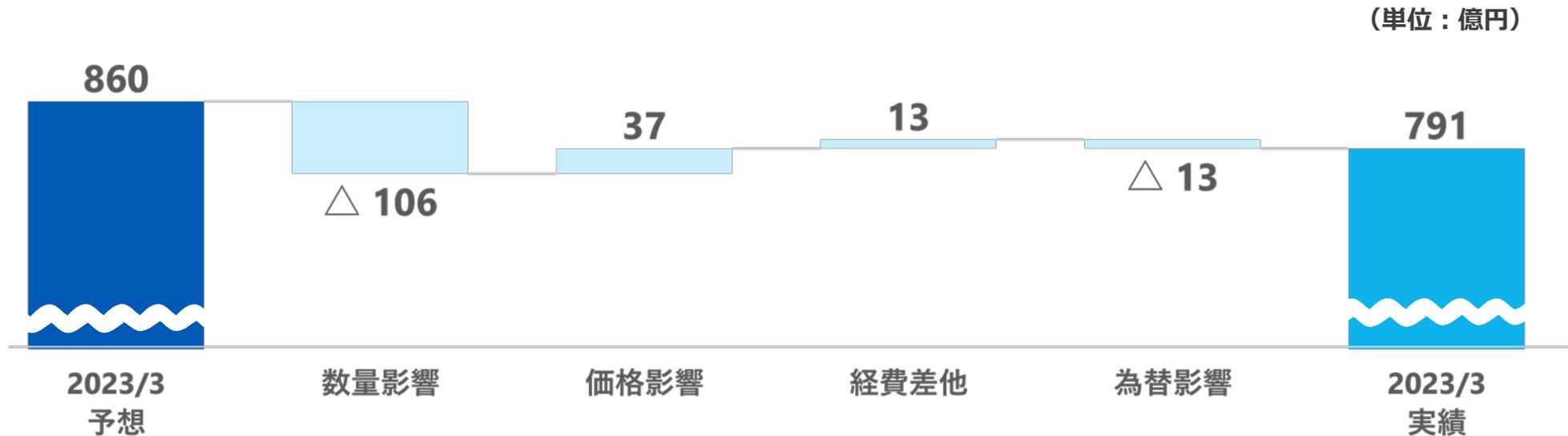
2024年3月期

- ・ 年間配当予想 44円/株 (2023年3月期から**6円増配**)
- ・ 1,600万株 (発行済株式数の5.28%) の**自己株式消却**を実施
- ・ 総還元性向40%以上を目標に今後さらなる株主還元を検討

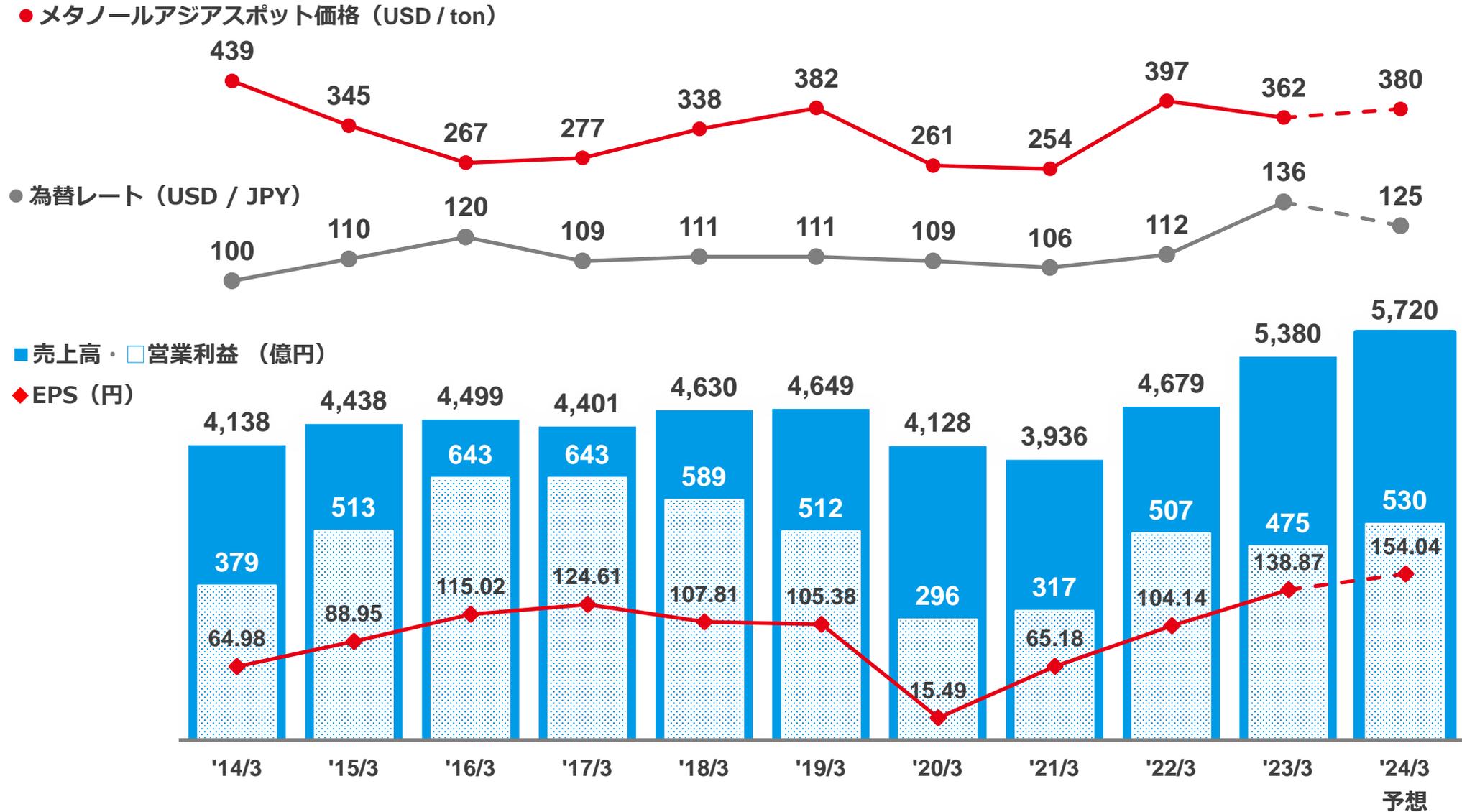


Appendix

- 中国ロックダウンからの自動車挽回生産や液晶パネル在庫適正化による下期の需要回復を見込むも、需要回復の遅れや中国の景気減速により、スマート事業、セイフティ事業、エンジニアリングプラスチック事業を中心に販売数量が減少。マテリアル事業の拡販や各事業での販路拡大などによる収益改善に取り組むも、数量影響はマイナス
- マテリアル事業を中心に販売価格是正に積極的に取り組み、価格影響はプラス
- セイフティ事業の米国における人件費増加の影響はあるものの、コストダウンの徹底による収益改善に取り組む、経費差他はプラス
- 為替レート（USD/JPY）前提 予想：137円（下期 140円）⇒ 実績：136円（下期 137円）



売上高・営業利益・EPSの推移



単位：億円

	2019/3 実績	2020/3 実績
セルロース	29	59
有機合成	221	220
合成樹脂	61	86
火工品	108	85
その他事業・全社	28	27
合計	447	476

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	87	10	27	22	20
スマート	20	29	42	42	45
セイフティ	88	77	90	90	110
マテリアル	116	188	86	91	140
エンジニアリング プラスチック	71	74	306	306	660
その他事業・全社	14	30	12	12	5
合計	396	408	563	563	980

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2019/3 実績	2020/3 実績
セルロース	83	75
有機合成	60	61
合成樹脂	50	60
火工品	88	73
その他事業・全社	19	21
合計	300	290

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	14	14	28	15	10
スマート	16	20	27	27	35
セイフティ	47	50	65	65	70
マテリアル	90	90	97	110	150
エンジニアリング プラスチック	69	70	86	86	80
その他事業・全社	22	25	6	6	5
合計	258	269	308	308	350

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

単位：億円

	2019/3 実績	2020/3 実績
セルロース	13	13
有機合成	39	40
合成樹脂	38	38
火工品	52	51
その他事業・全社	66	70
合計	207	213

単位：億円

	2021/3 実績	2022/3 実績	2023/3 実績 (※1)	2023/3 実績 (※1・2)	2024/3 予想 (※1・2)
メディカル・ヘルスケア	21	19	22	28	26
スマート	27	36	42	42	37
セイフティ	51	56	63	57	55
マテリアル	16	15	28	28	40
エンジニアリング プラスチック	35	37	61	61	70
その他事業・全社	46	45	3	3	2
合計	195	207	219	219	230

※1 見直し後の全社費用配賦方法を反映しており、「その他事業・全社」の数値は「その他事業」のみの数値です。

※2 化粧品原料1,3-BGおよび新規投与デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映した数値です。

セグメント別 売上高・営業利益（四半期推移）

単位：億円

	売上高							
	2022/3				2023/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	48	48	50	49	54	55	56	60
スマート	80	75	86	85	96	66	71	64
セイフティ	163	156	185	191	178	220	224	219
マテリアル	283	298	312	336	347	377	411	413
エンジニアリングプラスチック	515	529	524	555	587	648	595	550
その他事業	26	28	26	34	18	17	26	29
合計	1,114	1,135	1,182	1,250	1,280	1,383	1,383	1,335

単位：億円

	営業利益							
	2022/3				2023/3			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
メディカル・ヘルスケア	6	8	5	6	7	4	△ 0	△ 4
スマート	15	11	11	4	11	△ 8	△ 6	△ 4
セイフティ	△ 0	11	13	2	△ 4	0	12	△ 10
マテリアル	44	42	53	44	49	55	33	83
エンジニアリングプラスチック	71	60	36	54	66	79	64	44
その他事業	4	1	3	5	1	0	2	0
合計	139	133	120	114	130	130	105	109

2024年3月期通期業績予想

単位：億円		2023/3			2024/3			増減
		上期実績	下期実績	年間	上期予想	下期予想	年間	
売上高	メディカル・ヘルスケア	80	86	166	65	70	135	△ 31
	スマート	162	134	296	175	225	400	+104
	セイフティ	397	442	840	425	475	900	+60
	マテリアル	752	855	1,608	885	895	1,780	+173
	エンジニアリングプラスチック	1,236	1,145	2,381	1,135	1,315	2,450	+69
	その他事業	35	55	91	25	30	55	△ 36
売上高		2,662	2,718	5,380	2,710	3,010	5,720	+340
営業利益	メディカル・ヘルスケア	7	6	13	2	5	7	△ 6
	スマート	4	△ 10	△ 6	0	5	5	+11
	セイフティ	△ 0	5	5	10	70	80	+75
	マテリアル	104	103	207	145	105	250	+43
	エンジニアリングプラスチック	145	109	253	53	132	185	△ 68
	その他事業	1	2	3	0	3	3	△ 0
営業利益		260	215	475	210	320	530	+55
経常利益		302	218	520	215	335	550	+30
親会社株主に帰属する当期純利益		222	185	407	150	290	440	+33
(参考) 為替レート USD/JPY		134	137	136	125	125	125	

※ 2023年3月期実績は、化粧品原料1,3BGおよび新規医療デバイス研究開発機能のセグメント変更を反映しています。

為替レート・主要原燃料価格動向

		2022/3		2023/3			2024/3		
		上期実績	下期実績	上期実績	下期計画	3Q実績	4Q実績	上期計画	下期計画
為替レート (USD/JPY)		110	115	134	140	142	132	125	125
原料	メタノール アジアスポット価格 (USD/ton)	368	427	374	400	345	352	380	380
	原油 ドバイ (USD/bbl)	70	87	102	100	85	80	90	90
	国産ナフサ (円/kl)	50,500	62,650	83,750	76,000	72,500	66,500	68,000	68,000

予測に関する注意事項

- 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料（業績計画を含む）は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ご使用に際しては、ご自身の判断にてお願いいたします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。

本資料の著作権は株式会社ダイセルに帰属します。

いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。